

## 【小学校版】令和7年度全国学力・学習状況調査の結果

令和7年10月  
菰野町教育委員会

令和7年4月17日に、小学校6年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の結果の概要をまとめました。

結果の公表については、保護者・地域の皆様に学校教育と家庭教育についてのご理解とご協力を得ることが何よりも大切であると考え、教科に関する結果、学力の背景となっている児童質問紙調査からみられた本町の児童の好ましい傾向と教育課題、そして今後の取り組みについてお示しさせていただきます。

### 教科に関する調査結果の概要

今年度の教科に関する調査では、国語、算数、理科の3教科で実施されました。本町では、国語、数学、理科それぞれにおいて、全国、三重県の平均正答率を上回る結果となりました。

以下に、調査結果から「おおむね理解している問題」と「課題がみられた問題」についてまとめました。

#### 【小学校 国語】

##### 《おおむね理解している問題》

- ◇ インタビューをする場面における発言の目的を選択する問題。 **正答率：約8割**
  - ・ インタビュアー（小森さん）が「安全に運転するために、例えばどのようなことを心がけているのですか。」と発言した目的として適切なものを選択することができます。

##### 《課題がみられた問題》

- ◆ 言葉の変化に関する資料3を読み、要旨（文章の内容の中心）を把握する問題 **正答率：約5割**
  - ・ 言葉の変化に関する資料3を読み、『時代とともに言葉の意味が変わる』という要旨を捉えることに課題がみられます。

課題がみられた問題

【資料3】  
とどこまでできる？できない？

今、あなたは「勉強がとどこでもできる」という言い方を考えたとは思わないでしょう。「とどこでも」は「非常に」の意味を表します。ところが、100年ほど前の大正時代、作家の芥川龍之介は、「とどこでも安い」「とどこでも寒い」という言い方は新しいと書いています。それより前の時代には、「とどこでもかなわない」「とどこでもとまらない」のように、「とどこでもくれない」の形で言ったのです。つまり、大正時代よりも前は、「勉強がとどこでもできる」とは言わず、「はくには、そんなことはとどこでもできない」と言っていたんですね。この場合の「とどこでも」は、「どうして」「どうして」という意味を表します。

こんな話を聞くと、「じゃあ、これからは「とどこでもできない」と言おう、「とどこでもできる」とは言わないようにしよう」と思うかもしれません。でも、その必要はありません。もっと古い時代、室町時代には、「とどこでも」は「どうせ」の意味で使っていました。たとえば、「とどこでも散るべき花」と言えば、「どうせ散る花」という意味です。

ことは昔の意味だけで使おうと思ったら、現代では暮らせなくなってしまう。「昔はどうだったか」を知ることは大事ですが、「現代ではどう使われているか」を理解することも大事です。現代の人は、ことは現代の意味で使うのが一番いいのです。

（飯間 浩明「日本語をつかまえろー」による。）

【木村さんのメモ】  
言葉の変化について分かったこと

「あたらしい」は新しい形  
(奈良時代) → (平安時代) → (今)  
あたらしい ↓ あたらしい

時代とともに言葉の形が変わる。

とどこでもできる？できない？  
(室町時代) (大正時代より前) (今)  
どうせ ↓ どうしても、どういて ↓ 非常に

イ

【木村さんのメモ】の「イ」に当てはまる内容として最も適切なものを、「資料3」を読み、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 時代とともに言葉の意味が変わる。
- 2 時代とともにものの使い方が変わる。
- 3 時代によってものの呼び方がちがう。
- 4 時代によって言葉の使い方は変わらない。

## 《今後の学習の手立て》

本問題では、「とても」の意味が、室町時代は「どうせ」⇒大正時代より前は「どうしても、とうてい」⇒今は「非常に」と変化していることを事例から読み取り、『時代とともに言葉の意味が変わる』という要旨を捉えることが求められました。

誤答の傾向として、要旨を『時代とともにものの使い方が変わる』と捉えた児童がみられました。本問題の資料3では「意味」や「使う」という言葉が繰り返し出てきます。要旨を『時代とともにものの使い方が変わる』と捉えた児童は、「使う」という言葉に着目して判断したと考えられます。要旨は文章の一部だけでなく、文章全体の構成や事例を捉えた上で把握することが大切です。

また、要旨を『世代によってもものの呼び方がちがう』と捉えた児童も多くみられました。これらの児童は、資料3ではなく、【木村さんの経験】に着目して要旨を捉えたと考えられます。問題場面の「問い」や「条件」に即して文章を読み取る習慣や、読み取った後に自分の考えと問いや条件が照応しているかについて振り返る習慣が身につくよう指導していきます。

## 【小学校 算数】

### 《おおむね理解している問題》

◇ 棒グラフから、項目間の関係を読み取る問題。

正答率：約8割

- ・棒グラフから、2022年のブロッコリーの出荷量が2002年の出荷量の約何倍かを求めることができます。

### 《課題がみられた問題》

◆ 「10%増量」した量は、基準量の何倍になっているかを求める問題。

正答率：約4割

- ・10%増量したハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍になっているかを表すことに課題がみられました。

## 課題がみられた問題

家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。

広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800 mLです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。

上の○にあてはまる数を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 0.1
- 2 1.1
- 3 10
- 4 110

## 《今後の学習指導の手立て》

本問題では、10%増量したハンドソープの量が、増量前の量の何倍になっているかを表すことが求められました。

誤答の傾向として、10%増量の「10%」に着目し、増量後のハンドソープの量は、増量前の量の0.1倍になると捉えた児童が多くみられました。10%増量したハンドソープの量は、増量前の量の「110%」になることを捉えることができなかつたと考えられます

割合の学習では、児童が問題場面から基準量、比較量、割合の関係を捉えることができるようにすることが大切です。児童にとって分かりやすい図をかいて数量の関係を捉えさせた上で、求める量について考えることができるよう指導していきます。

## 【小学校 理科】

### 《おおむね理解している問題》

◇ 実験で得られた結果をもとに、規則性や傾向を見だし、他の条件での結果を予想する問題。

正答率：約8割

- ・土の粒の大きさ（大きい粒と小さい粒）によって水のしみ込む時間に違いがあるのかを実験し、その結果をもとに、中くらいの粒の土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶことができます。

### 《課題がみられた問題》

◆ 身の回りの金属について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質についてあてはまるものを選択する問題。

正答率：約1割

- ・アルミニウム、鉄、銅には、電気を通す性質があるか、また、磁石に引き付けられる性質があるかを判断することに課題がみられます。

## 課題がみられた問題

アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の 1 から 4 までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

- 1 電気を通し、磁石に引きつけられる。
- 2 電気を通し、磁石に引きつけられない。
- 3 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
- 4 電気を通さず、磁石に引きつけられない。

アルミニウム	2
鉄	1
銅	2

## 《今後の学習の手立て》

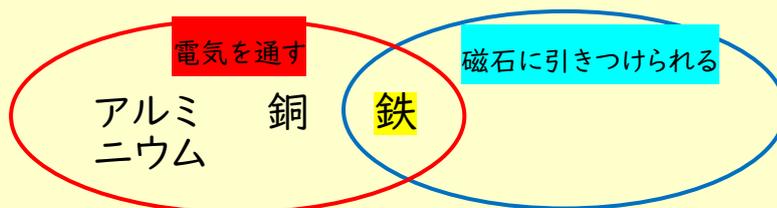
本問題では、身の回りにある金属（アルミニウム、鉄、銅）について、電気を通す性質があるか、また、磁石に引き付けられる性質があるかを判断することが求められました。

本問題の正答率は、全国でも約1割と低く、金属（アルミニウム、鉄、銅など）には電気を通す性質があり、金属の中の鉄には磁石に引き付けられる性質があるという金属の性質に関する知識が十分に付いていないことが明らかになりました。菰野町でも同様の傾向がみられました。

「電気の通り道」と「磁石の性質」について学習する単元では、鉄、アルミニウム、ガラスなど、同じものを用いて観察・実験をすることが多いため、判断に迷った児童がいたと考えられます。

「電気の通り道」と「磁石の性質」、それぞれの単元で身に付けた知識を下記の図のように整理してまとめるなど、学んだ知識を関連付けて理解を深める学習場面を年間計画の中に設定していきます。

【身の回りの金属】



# 菰野町の子どもたち

先生は、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる  
**89.4%**  
 (全国 87.4%)

朝食を毎日食べる  
**95.7%**  
 (全国 93.7%)

毎日、同じくらいの時刻に寝る  
**85.4%**  
 (全国 81.9%)

毎日、同じくらいの時刻に起きる  
**93.9%**  
 (全国 91.0%)

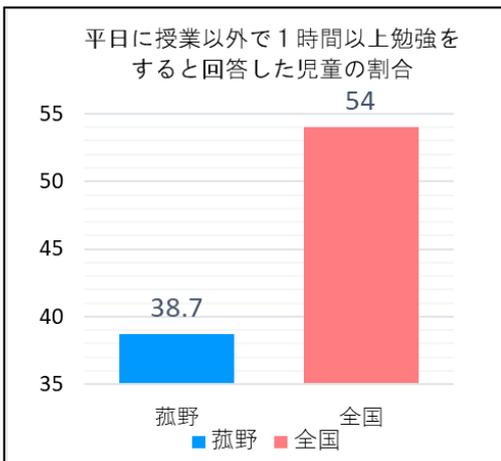
※子どもたちが児童質問調査で肯定的に回答した割合が全国より高かった設問より

菰野町では、教育活動全体において、子どもたちを認めたり、考えや思いを受け止めたりしながら自己肯定感を育むこと、互いに認め合い支え合える人間関係づくり、安心して学べる学習環境づくりを大切にまいりました。今後も、子どもたちが将来の夢や目標の実現に向かって可能性を伸ばしていけるよう、一人ひとりのよさを認めたり、達成感を味わわせたりする教育活動を進めてまいります。

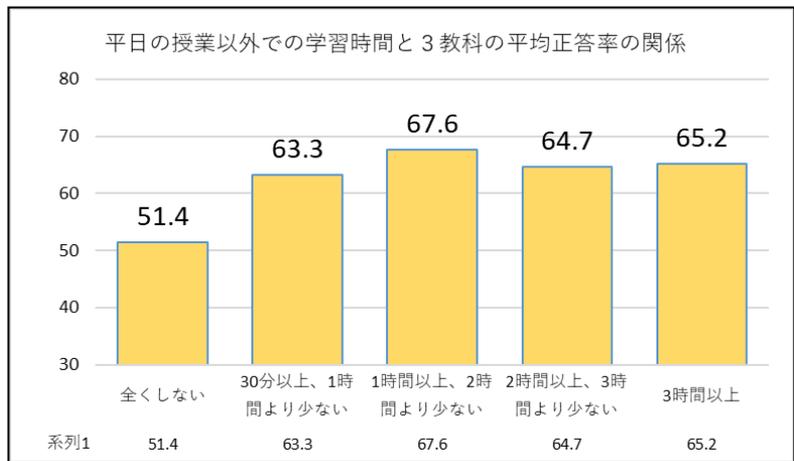
また、菰野町の子どもたちは、保護者・地域の皆様に支えられ、すこやかに成長しています。今後も保護者・地域の皆様と連携・協働して地域ならではの特色を生かした学校づくりを進めてまいります。

## 児童質問調査からみられた課題

Q 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか



学校の授業以外で1時間以上勉強をしていると回答した児童の割合は、昨年度に引き続き全国と比べて低く、低下傾向にあります。



学校の授業以外での学習時間が長い子どもたちほど、教科の平均正答率が高くなる傾向が見られます。

# 保護者の方へのお願い

## 家庭で学習する習慣を身につけさせましょう

子どもたちに学校で学習した内容を定着させるためには、家庭での学習習慣を身につけさせることがとても重要です。繰り返しの練習や授業の予習・復習に日常的に取り組むことで、基礎・基本が確実に定着していきます。

子どもたちが毎日の家庭学習に取り組むことができるように、励ましの声かけや学習に集中して取り組める環境づくりにご協力をお願いします。

また、ゲームをする時間やスマートフォン、タブレットの使用時間が長時間とならないように、見守りや声かけもお願いします。

菰野町では、家庭学習の充実のために「家庭学習の手引き」を作成し、子どもたちと保護者の皆様に配付しています。「家庭学習の手引き」をご活用いただき、お子さんと一緒に家庭学習の取り組みについて、振り返っていただきますようお願いいたします。

## 保護者・地域の皆様へ

菰野町では、学校と教育委員会が一体となって、子どもたちの「確かな学力」の育成をめざして、子どもたちが「わかる・できる喜び」を実感できる授業改善と学力向上に向けた取り組みを進めてまいります。

今後も、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの成長を支えてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。